

# 産地直送便



発行（農）山形おきたま  
産直センター  
山形県南陽市漆山 1068  
TEL 0238 (47) 7338  
<http://www.okitama.net/>  
2012.4.1 発行  
責任者 星 隆之

## ～稲作講座～

今回は3月17日に開催された当センターの「稲作講座」の様様をご紹介します。

この講座は私たちが取り組んでいる有機栽培（無農薬）特別栽培（減農薬）のさらなる技術向上を目指して数年前に開講しました。当初はあまり資料もなく“手探り状態”でのスタートでしたが、年を重ねる毎に資料や経験が蓄積していき、今では稲の生育ステージや、的確な管理を行うために「育苗編」「苗代巡回」「田んぼ編」を開催するほど内容の濃い学習会になってきています。



さて、先日開催されたのは「稲作講座 育苗編（種まき～苗代までの期間）」です。

苗づくりは昔から「苗半作」と言われるほど重要な技術なのですが、農薬に頼らない私たちの米づくりでは「苗7分作」と言われるほどさらに重要度が上がっています（苗自身が病害虫に負けない強さを身につけてくれないと田んぼでどうにもなりませんからね）。ということで写真を駆使して説明する渡沢組合長の言葉にも熱が入ります。

ただ、育苗期の苗はかなりデリケートでその管理が難しいこともまた事実。これまで思うようにいかなかった事例も少なくなく、参加者からは質問や意見、経験談などが活発に飛び交っていました。

幸か不幸か私たちには多くの成功事例と失敗事例がありますからね（笑）みんなよく話し合いよく分析して、組合員全体の技術向上に結びつけていければいいなと思っています。



次の稲作講座は5月上旬の「苗代巡回」の予定です。今年は雪融けが遅くて苗代にも若干影響が出そうな気もしますが、立派な苗たちに出会えることを期待したいと思います。



田んぼの生き物調査隊隊長

目黒 祥一

## 東日本大震災復興支援カンパに取り組んでいます



～引き続き支援が必要です～

3.11 から 1 年、被災地は未だガレキの処理さえ手つかずの状態です。

被災された方々の生活が元に戻るまで、息の長い支援が必要です。

被災直後に「産直米」を「支援米」として活用して欲しいと消費者の皆様より多大な申し出があり、当センターから宮城県塩釜市の被災地にお届けをする事が出来ました。

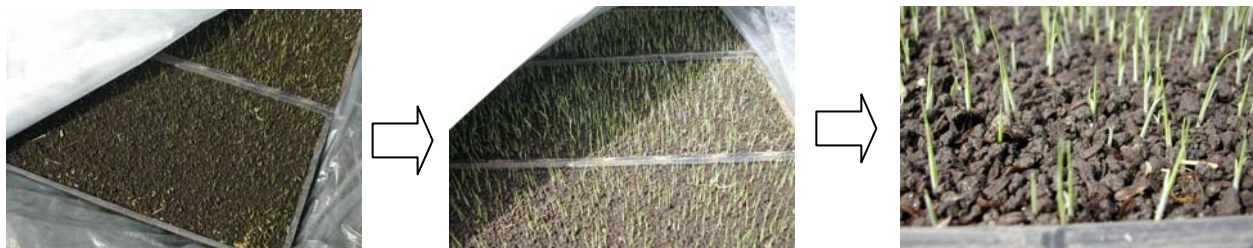
あれから 1 年を迎え、支援の一環として「産直米」を「支援米」として今後も被災者の方へ届ける事に致しました。つきましては常日頃「産直米」をご利用頂いておられる皆様に財政的なご支援をお願い致します。

尚、皆様より頂いた浄財と同額を当センターも負担し、合わせて「支援米運動」の財源とさせて頂く予定です。

皆様にご協力をお願い文書と復興支援カンパ専用振込用紙をお送りしております。ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

## おきたまの卯月

- |   |        |   |
|---|--------|---|
| 米 | 侵種・芽だし | 種籾を水に浸す事によって、水分を含ませ発芽させる準備をします。種まきの直前に温度を加えて発芽させます。 |
|   | 苗代     | 4月中旬頃から、育苗箱に種をまき育苗を行います。健康な苗をそだてるために、薄蒔きにします。       |
|   | 堆肥散布   | 4月下旬頃から、有機質肥料など(堆肥やぼかし肥料)を田んぼに散布し土作りを行います。          |



**果物** 4月下旬頃から、さくらんぼ、西洋梨、りんごの順に次々と花が咲き実を結んでいきます。